



授業づくりの視点

言語を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの気持ちを伝え合う活動を大切にしましょう。

中学年の外国語活動で慣れ親しんだ語句や基本的な表現等の学習内容を繰り返し指導し、定着を図りましょう。

「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」に、「読むこと」「書くこと」を加え、中学校へつながる基礎的な力を育てましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 When is your birthday? 【第5学年】

児童にとって大切な誕生日や行事を取り上げながら、日常生活に欠かせない月日、好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う際に必要な表現を理解するとともに、それらについて尋ねたり答えたりする。

思考力、判断力、表現力等

友達の好みや欲しいもの、誕生日に関するまとまりのある話を聞いて分かったり、伝え合ったりする。

学びに向かう力、人間性等

積極的に取り組むとともに、他者に配慮しながら、好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おうとする。

3 単元のデザイン 全7時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う単元全体のイメージをもつ。 ・ 同じ月でも日本とは季節が異なる国があるよ。 ・ 先生のように英語で会話ができるようになりたいな。
練習や自己表現活動、振り返りを重ねながら、語彙や表現に慣れ親しみ、必要な表現を習得する	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合うために必要な表現を習得し、繰り返し表現する。 ・ 月と序数を使ったら、自分の誕生日が紹介できるよ。 ・ 好みや欲しいものが尋ねられるようになってきたよ。 ・ 友達に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかな。
言語活動を行う 本時 単元を振り返り、次への課題をもつ	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合うという言語活動を行い、自分の考えや思いを他者に伝える。 ・ 相づちを打ちながらやり取りができたよ。 ・ 今まで知らなかった友達の一面を知ることができたよ。

◎本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 児童にとって特別な月日である誕生日を扱うことで、興味や関心を高めさせる。
- 誕生日等について伝え合うという言語活動のモデルを見せることで、単元の見通しをもたせる。

対話的な学び

- ペアや班で英語を使ってコミュニケーションを行う場を設定することで、誕生日等について伝え合うために必要な語彙や表現を繰り返し用いて英語に慣れ親しみ、表現の定着を図る。

深い学び

- 慣れ親しんだ語彙や表現を活用して言語活動を行う中で、自分の言語活動を振り返る場を設定することで、改善点や気付きを促し、次の言語活動へ生かすことができるようにする。

児童の学びの質を
高めるPoint
自分の授業に取り入れて
みましょう。

Point

スモールトークの 位置付け

英語表現の定着を図ったり、英語学習に向かう意欲を高めたりするために、既習の表現を使って英語で会話を楽しむ帯活動（スモールトーク）を授業の導入に位置付けましょう。

Point

段階的な指導を 行う

「言語活動」「振り返り・分からない表現等の指導」「再び言語活動」という段階的な流れによって、自分のことを伝え合わせることで、児童自らが改善点を見付け、よりよいコミュニケーションの方法を考えられるようにしましょう。

Point

自己の学びを 自覚させる

振り返りのポイント（声の大きさやアイコンタクト等の伝え方や表現の工夫）を示し、具体的に振り返りを行うことで、自己の学びを自覚させましょう。

本時のねらい

好みや欲しいもの、誕生日について、慣れ親しんだ表現を使って、相手のことを考えながら伝え合うことができる。

本時の流れ

帯活動（スモールトーク）を行う

学習の見通しをもち、めあてをつかむ

めあて

好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おう

やり取りをしながら、重要表現に慣れる
【Who am I?】

やり取りを重ねながら、自己表現の幅を広げる

学習内容をまとめる

まとめ

既習表現を使用して会話をすれば、好みや欲しいもの、誕生日を友達と伝え合うことができる

振り返りをする

児童の学びの姿

◎スモールトークを行い、英語学習に向かう気持ちを高める。

- ・前の授業で習った表現だね。
- ・集中して先生たちのやり取りを聞こう。

◎好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おうという言語活動のモデルを示し、本時のめあてをつかむ。

- ・先生に関する情報をしっかり聞き取ろう。
- ・どの先生の情報かな。



◎言語活動を行い、必要な語句や表現に慣れ親しむ。

- ・スムーズに友達に伝えられるようになってきたよ。

◎試行錯誤や対話を重ねながら、よりよいコミュニケーションの方法を探る。

- ・自分の欲しいものをどのように言えば伝わりやすいかな。
- ・Really? Me too! Nice.を使えば、会話が続くね。



◎本時で学んだことを言葉で表現し、新たな見通しをもつ。

- ・相づちを打ちながらやり取りするとお互いに気持ちいいね。

教師の手だて

○スモールトークを行う際は、教師とALT間で既習の表現を使ってやり取りをしながら、How about you? やWhat do you think? 等と児童に話題を振ることで、学級全体で学習する雰囲気をつくる。

主体的な学びの手だて

児童の関心のある身近な先生の情報（話題）を取り上げ、ALTが児童とやり取りをしながら、モデルを示す。

○教師の情報（話題）を取り上げる際には、Who am I? Please guess.と児童の興味を引きながら、内容を推測させる。

対話的な学びの手だて

言語活動を行う際に、まずは言語活動を実施し、語句や表現を繰り返し使用する中で、表現の仕方を徐々に理解させるようにする。

深い学びの手だて

言語活動を振り返り、上手くいった点や改善点を考えるように投げかけたり、分からない表現等の全体指導を行ったりする。

○振り返りや全体指導を踏まえて、再度言語活動に取り組みせ、よりよい言語活動を行うことができるようにする。

○友達に伝える表現や友達のことを考えた伝え方の工夫に関する気づきを称賛し、全体で共有する。



授業づくりの視点

英語に慣れ親しむ活動や友達との関わりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行いましょう。

言語活動を設定し、見通しをもつ、慣れ親しむ、言語活動を行う、まとめと振り返りを行うという学習過程を意識しましょう。

「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」の音声面を中心として、コミュニケーションを図る素地を育成し、高学年の学びにつなげましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 ALPHABET 【第3学年】

身の回りにあるアルファベットの大きな文字を取り上げることで、児童の文字への興味・関心を高め、大文字とその読み方に慣れる単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

身の回りにはアルファベットの文字で表されているものがあることに気付くとともに、アルファベットの大きな文字とその読み方に慣れ親しむようにする。

思考力、判断力、表現力等

自分の姓名の頭文字を聞いたり、話したりして、自分の考えや気持ち等を伝え合う力の素地を養う。

学びに向かう力、人間性等

相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

3 単元のデザイン 全4時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎自分のイニシャルの紹介をするという単元全体のイメージをもつ。 ・アルファベットがいろいろなところに使われているな。 ・先生のように英語で自己紹介ができるようになりたいな。
練習や言語活動、振り返りを重ねながら、語彙や表現に慣れ親しむ	◎自分のイニシャルの紹介をするために、必要なアルファベットの大きな文字とその読み方や伝えるための表現に慣れ親しむ。 ・アルファベットが読めるようになってきたよ。 ・友達に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかな。
言語活動を行う 本時 単元を振り返り、次への課題をもつ	◎自分のイニシャルを紹介するという言語活動を行い、自分の伝えたいことが相手に伝わる楽しさに気付く。 ・自分のイニシャルをたくさんの友達に伝えたいな。 ・名前が違うのに、友達と自分のイニシャルは同じだったよ。 ・上手に友達に伝えることができたよ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 自分の身の回りにあるアルファベットの大文字を探すことで、興味や関心を高めさせる。
- 自分のイニシャルの紹介をするという言語活動のモデルを見せて、単元の見通しをもたせる。

対話的な学び

- ペアや班で英語を使って コミュニケーションを行う場を設定し、アルファベットの大文字や表現を繰り返し用いることで、英語に慣れ親しませる。

深い学び

- 慣れ親しんだアルファベットの大文字や表現を活用して言語活動を行う中で、改善点に気付かせたり、全体に指導をしたりすることで、よりよい言語活動を行うことができるようにする。

本時のねらい

相手に伝わるように工夫しながら、自分のイニシャルを伝えようとする。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもち、めあてをつかむ

めあて

自分のイニシャルを友達に伝えよう

やり取りをしながら、使用表現に慣れる
【自分のイニシャルを伝えてカードを友達と取る】

やり取りを重ねながら、さらに自己表現の幅を広げる
【相手に自分のイニシャルを紹介できたら、カードを渡す】

学習内容をまとめる

まとめ

イニシャルを友達に伝えるためには、声の大きさ、表情、アイコンタクト等に気を付けると伝わりやすい

振り返りをする

◎**終末で達成する言語活動のモデルを示し、本時のめあてをつかむ。**

- ・KとFが聞こえたけど、何かな。
- ・Kevin先生のKだね。
- ・自分のイニシャルを友達に伝えたいな。

◎**言語活動を体験することを通して、語句や表現に慣れ親しむ。**

- ・自分のイニシャルがちゃんと友達に伝わったよ。

◎**言語活動をよりよくするために、改善点を考える。**

- ・改善点を意識して友達に話すと伝わりやすくなったよ。
- ・自分のイニシャルがきちんと友達に伝わるように、はっきりと言おう。



◎**本時で学んだことや気づきを言葉で表現し、自分の学びを自覚する。**

- ・友達の間を見ながら、イニシャルを伝えたよ。
- ・名前は違っても、イニシャルは同じで、おもしろいね。



主体的な学びの手だて

自分のイニシャルの紹介をするという言語活動のモデルを担任とALTが実際に行うことで、児童に言語活動の見通しをもたせる。

- 聞こえたアルファベットとその組み合わせから、会話全体の内容を推測させ、自然な音声と場面から意味を聞き取るようとする態度を育てる。

対話的な学びの手だて

同じ語句や表現を別の場面で繰り返し用いることで、使い方をよりよく理解できるようにする。

深い学びの手だて

言語活動は一度で終わるのではなく、児童にやり取りをさせた後に、改善点に気付かせたり、全体に指導をしたりする。そうすることで、児童全員が気づきや改善点を共有し、その後の言語活動をよりよく行うことができるようにする。

- 学級の中で同じイニシャルをもつ児童を紹介し、「名前は違ってもイニシャルは同じである」というイニシャルの面白さに気付かせる。

- 伝え方の工夫についての気づきを称賛し、全体で共有する。

Point

言語活動の見通しをもたせる

日本語で一方向的に説明するのではなく、教師とALT等で言語活動のモデルを示すことで、行う言語活動を児童が理解できるようにしましょう。

Point

体験から慣れ親しませる

児童が体験的なコミュニケーション活動を実際に行う中で、表現に慣れ親しむこと、英語を使用する楽しさを感じることを大切にしましょう。

Point

改善点に気付かせる

言語活動を行う中で、児童が本時のそれまでの活動を振り返る場を設定し、言語活動をよりよく行うための改善点等に気付かせましょう。そして、その後、気づきを生かしながら言語活動を行う場を再度設定しましょう。



授業づくりの視点

技能統合型の授業を目指し、伝える内容を整理し、即興で情報を伝える等、言語活動を行う中で、「思考力・判断力・表現力等」の育成を図りましょう。

生徒が「英語に触れる機会」を最大限に確保し、授業が英語を使った「実際のコミュニケーションの場」となるよう、授業は基本英語で行いましょう。

小学校の学びとの接続を意識し、自分の考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動や既習表現を実際に活用する活動を充実させましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 将来の夢 [第2学年]

不定詞の三つの用法を理解し、自分の将来の夢について伝え合うことができるようにする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

不定詞に関する知識を身に付け、目的、夢、希望の表現の仕方や情報を付け足す言い方を理解するとともに、それらを実際に活用し、スピーチを行う。

思考力、判断力、表現力等

友達と協働して文章を推敲したり、英語で自分の考えや気持ちを表現し、伝え合ったりする言語活動を通して、課題を発見し、表現や伝え方を工夫する。

学びに向かう力、人間性等

相手を尊重しながら、将来の夢について自分の考えや気持ちを伝えようとする。

3 単元のデザイン

全12時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見直しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の将来の夢についてスピーチを行ったり、友達の夢を聞いて人に伝えたりするという単元終末の言語活動についての見直しをもつ。 ・不定詞を使って、友達に自分の将来の夢を伝えたいな。
不定詞の用法を習得する 練習や自己表現活動、振り返りを重ねながら合理的な解決に向かう	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 不定詞の三つの用法に関する知識を習得するとともに、表現の練習や自己表現活動を繰り返し行う。 ・したいことはwant to do、夢はwant to be。他にも「～するために」という目的も表すことができるんだね。 ・後ろから名詞を修飾する場合にも、不定詞を使えば、より詳しく説明できるね。
言語活動を行う 本時 単元のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 既習事項を活用して、自分や友達の将来の夢について伝え合う。 ・将来の夢について、まとまりのある文でスピーチをすることができた。 ・自分の考えや気持ちを表現することがだんだん楽しくなってきたよ。 ・他者から得た情報を即興で伝えることは、日常生活でよく行うから大切だ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○生徒にとって、身近な話題を題材に選んだり、不定詞を用いたスピーチのデモを見せたりすることで、興味・関心を高めたり、学習の見直しをもたせたりする。

対話的な学び

○ペアや班で対話を重ねながら、課題の解決に向かう場面を設定する。
○意見や考えを交流させることで、誤りや改善点に気付かせる。

深い学び

○既習事項や習得した知識を活用して言語活動を行う中で、改善点や気付きを全体指導で取り上げることで、新たな気付きや考えの再構築を促す。

本時のねらい

自分の将来の夢について発表したり、友達の夢を聞いて人に伝えたりして、言語活動に積極的に取り組むことができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもつ

めあて

自分や友達の将来の夢を伝え合おう

班で、スピーチ原稿を仕上げ

ポイントを確認し、スピーチを行う

メモをとりながら友達のスピーチを聞く

メモを基に即興で内容を伝える

学習内容をまとめる

まとめ

まとまりを意識したスピーチをすることで、お互いの夢を分かりやすく伝え合うことができる

振り返りをする

◎既習事項やスピーチのデモを確認し、本時の言語活動のイメージをつかむ。

・前時の授業で、自分なりにスピーチを考えたけれど、友達に上手く伝わるかな。

◎友達と協働しながら、自分のスピーチ原稿を推敲する。

・正しく書いているかな。
・理由が二つあるから、ここに“I have two reasons.”を加えてみよう。



◎スピーチの基本形式や伝え方のポイントを確認し、スピーチをし合う。

・友達の表情を見ながら話すと、理解してくれているかが分かる。
・何になりたいかとその理由は、しっかり聞き取ろう。



◎メモを基に、友達から得た情報を別の友達に即興で伝える。

・メモだけを頼りに、相手に要点を伝えることは難しいな。
・今度は主語が変わるから、三単現の「s」が付くよね。
・次は「s」を忘れないように、気を付けて話そう。

◎本時で学んだことを確認する。

・より人に伝わるスピーチができるようになった。
・次は、正確に書きたいな。

主体的な学びの手だて 職場体験を話題に取り上げ、既習事項を確認したり教師がスピーチのデモを見せたりすることで、スピーチのイメージをもちやすくする。

対話的な学びの手だて 文と文のつながりや文の膨らませ方、もう少し聞きたい内容等について、友達と意見を出し合いながら考えさせる。

○「具体例を示した文は、夢の理由に合っているか」や「この文はどこに挿入すれば、説得力が増すか」等の発問を適切に投げかける。

○生徒とのやりとりから、スピーチをする際のポイントを引き出し、聞き手を意識しながら伝えるように促す。

○スピーチを聞く際の効果的なメモの取り方（聞き取るべき内容や簡単なメモの取り方）を伝える。

深い学びの手だて 共通して間違えている表現等は全体で取り上げ共有し、再度言語活動に取り組みさせるようにする。

○即興性を求める活動なので、相手に伝える「内容」を重視すればよいことも指摘する。

○学びを振り返り、即興で伝えた友達の夢を書いてくる課題を与えることで、学習内容の定着を図る。

Point

基本、授業は英語で

生徒の理解の程度に応じて英語を使用しましょう。言語活動のデモを見せたり、モデル文を提示し、説明を最小限に留めたりすることで、生徒が英語を使う時間を増やしましょう。

Point

サイクルの繰り返し

「言語活動」⇒「指導」⇒「再度言語活動」のサイクルを繰り返し、よりよい表現の仕方に気付いたり、自分の考えを修正したりする場面を設定しましょう。

Point

即興でアウトプットさせる

外国語で伝え合う力を育成するために、事前に原稿を準備した「発表」だけではなく、即興でアウトプットさせる等の言語活動を位置付けましょう。